

下水道展'23 札幌 併催企画

「下水道資源の農業利用の展望」講演会 開催報告と市民に愛される札幌ドーム

対外活動委員会／委員長

(株式会社日水コン／地域統括本部／東部統括部／統括部長) 吉成大悟



1. はじめに

2023年の下水道展が8月1日から4日までの4日間、札幌ドームにて開催され、公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会（以下「水コン協」）も展示ブースの出展と、8月3日に併催企画「コンサルタントにおける脱炭素の取り組み」講演会を開催いたしました。

今回の下水道展は東京以北での初開催であり、また札幌市が2022年に市制100周年を迎えたこともあり、強い熱意で誘致・準備を重ねて来たと伺っておりました。

また、札幌ドームにとっても日本ハムファイターズの移転後の新たな活用策としての期待があったと聞いております。

その熱意は、来場者数にも反映され、特に一般の方々から多数の家族連れが来場し大盛況に終わりました。

今回は「北海道下水道展」の特徴・総括と併催企画、「下水道資源の農業利用の展望」の開催概要を報告いたします。

2. 北海道下水道展

水コン協では今回の下水道展の準備を2022年秋の「下水道展小委員会」の公募から始めました。その後問題となったのは

- ① 北海道支部に開催のノウハウが無い。
- ② 北海道開催だが、全国の学生（特に毎年楽しみにしている学校の生徒）に配信する必要がある。
- ③ 下水道展自体の集客がどの程度かわからない。

といった点がありました。結果的には北海道支部の献身的な協力で、水コン協の学生向け説明会「水コンサルタントになろう」では道内大学からの来場の他、オンラインでも多数の参加を頂くことができました。

水コン協は大学生向け以外に今回、「小学生向け下水道クイズ」を「子供のうちから上下水道に慣れ親しんでもらおう」という趣旨で開催しました。しかし私が来場者対応して感じたのは「非常に家族連れが多い」という点でした。

あまりに多いので、来場した家族連れに「どうして来場したのですか？」と尋ねたところ、「新聞のチラシで見



写真－1 下水道クイズの様子



写真－2 水コン協小学生向けノベルティ

た」、「学童でチラシを貰った」、「ニュースで見た」という回答が返って来ました。日本下水道協会様をはじめとした関連業界の広報活動が実を結んだのだと、その時驚きました。おかげさまで準備した子供用絵本、ノベルティはすべて無くなり、ノベルティは3日目急遽市内で準備することになりました。

（水コン協ブースの水来場者は昨年664名から1059名に増加しました）

3. 下水道併催企画の開催報告

(1) 開催の目的

2050年カーボンニュートラル、食料安全保障等が重要

な課題となっている中、下水汚泥のエネルギー・肥料としての利用への必要性が一層高まっています。特に肥料としての利用については、「食料安全保障強化政策大綱」（令和4年12月27日食料安定供給・農林水産業基盤強化本部決定）において、2030年までに下水汚泥資源・堆肥の肥料利用量を倍増し、肥料の使用量（リンベース）に占める国内資源の利用割合を40%まで拡大する目標が示されました。

このような背景から、下水道事業を通じた循環型社会の実現への貢献が求められており、コンサルタントによるこれからの下水道資源の農業利用における展望について、幅広く広報するため、学識者及びコンサルタント会社の社員による「下水道資源の農業利用の展望」講演会を開催いたしました。

(2) 開催概要

日時：2023年8月3日（木）9：30～11：30

会場：札幌ドーム 1階西側 89・90会議室



図-1 水コン協HPで録画を配信

協会HPでは、本併催企画の録画と、掲載後1年経過によりHPから削除していた昨年の「コンサルタントにおける脱炭素の取り組み」も要望があり再アップしております。

参加者の内訳は次表の通りです。

申込みは定員（100名）が早速埋まり、当日「申し込みしていないけど参加できないか？」と直接来場される方もおり、お断りするのがに申し訳ない気持ちになる盛況ぶりでした。

併設企画参加者の内訳			
	会場	WEB	計
➤ 省庁・研究機関			
➤ 教育関係者団体等	4名	6名	10名
➤ 自治体等	16名	12名	28名
➤ 会員会社	24名	95名	119名
➤ その他企業	35名	27名	62名
➤ 一般	4名	1名	5名
➤ 合計	83名	141名	224名

(3) シンポジウムの進行

シンポジウムは以下のように進行了しました

◆9：30 開会挨拶 水コン協 間山一典会長



写真-3 水コン協 間山一典会長

◆講演1 9：35～10：25

講演1 下水道資源の農業利用の動向と普及プロセス～先進地域・企業の分析より～ 東京大学加藤裕之先生



写真-4 東京大学 加藤裕之先生

◆講演2 10：30～10：55

「肥料化事業における関係法令と適切に発注するためのポイント」株式会社 NJS 森田耕平氏



写真-5 株式会社 NJS 森田耕平氏

◆講演3 11:00~11:25

「下水汚泥の農業利用に関する下水道事業者側のポイント」株式会社日水コン 原田哲郎氏



写真-6 株式会社日水コン 原田哲郎氏

4. おわりに

講師の皆様には、長時間に渡る御講演、またお忙しい中資料の取りまとめありがとうございました。

下水道資源の肥料化は、肥料の価格高騰、供給の不安定化を受け国も強く推し進めており、また一般にも関心の高い事業です。今回の発表も参加した皆様が熱心に聞き入り、改めて関心の高さを知り、お役に立てたと感じております。

水コン協でも引き続き、大学との共同研究を進めるなど会員企業・市民の皆様にお役に立てる企画を考えていきたいと思えます。

最後に、下水道展並びに本シンポジウムの企画、準備、運営にご協力頂いた皆様に、誌面をお借りしまして、深く感謝申し上げます。

下水道展では、本当にたくさんの子供たちに参加して頂きました。また水コン協カフェでは、最初よそよそしかった会員企業の若手の皆さんが、団結しコンサルタントの魅力を就職希望の学生に伝えていく様子を見ました。非常に充実した下水道展でした。

下水道展を終え、翌日寂しい思いで北海道を後にしました。さようなら北海道。

5. おまけ

その下水道展から7日後、私はまた東京から札幌ドームにやって来ました。先週と同じく福住駅からドームへの道のりは多数の親子連れが笑顔で歩いていましたが、先週と違うのは皆赤い服を着ていたところでした。下水道展の間、外でお休みしていた可動式の芝生をドーム内に運び込み、北海道コンサドーレ札幌対サガン鳥栖の試合が開催されました。私は応援するサガン鳥栖のサポーター



写真-7 赤く燃える今期2番目の動員の札幌ドーム



写真-8 下水道展にも来てくれた数少ない札幌のちびっこサガン鳥栖サポーターと私

ーとしてまたやってきました。ところが、試合開始後もピッチも見て「先週、自分、あそこに出展してたんだよなあ」と不思議な気持ちになってなかなか試合に集中できませんでした。

そんな気持ちはGKのパクイルギュ選手が最初のシュートを止めるまで続いたと思います。そこでやっと我に戻りました。この日は21,895人、今期2番目の大観衆がドームを包み込みました。(今回サガン鳥栖サポーターはお盆ということもあり少数精鋭となりました)

この日のように市民に愛される北海道コンサドーレ札幌は札幌市民・行政の強い熱意でチームの誘致が実現しました。まだ下部リーグだった北海道コンサドーレ札幌が1996年最初に札幌市内で試合を行った相手はサガン鳥栖の前身、「鳥栖フューチャーズ」でした。試合の日、当時の川淵チェアマンの前で逆転勝ちし、札幌市の熱意を強烈にアピールし、チェアマンから「札幌の応援は既にJリーグクラス」と唸らせたのと、今回の下水道展は少し似ているなと思うところです。

この2週間、たくさんの家族連れや子供たちの笑顔を見ることができました、これからも市民に愛される大事な札幌ドームであり続けて欲しいと思うのでした。